



umango

処理のインデックス説明書

目次

目次	2
インデックス	3
1. 固定インデックス	4
2. バッチ索引	5

インデックス

インデックスは、マージメソッドから参照できる動的または静的な変数です。Umango 処理を自動化するために設定できる構成がいくつかあります。

- 1. 固定インデックス:** 固定値またはマージされたルックアップ。管理者は、インデックスを参照するときに使用する固定値を設定したり、マージメソッドからの動的な値を使用することができます。
- 2. バッチ索引:** バッチ内のすべてのドキュメントに適用される、手動で選択または入力された値。管理者は、ユーザーが選択できる利用可能な値を設定するか、ユーザーに手動でテキストを入力するように依頼する必要があります。
- 3. ドキュメントテキストインデックスの生成:** このオプションを有効にすると、文書全体が OCR され、「DocumentText」というインデックスが作成されます。このオプションを有効にすると、バッチの作成時間が大幅に長くなる可能性があります。特に、ページ数の多い大きなドキュメントでは顕著です。

自動化の構成は、処理の作成時またはインポート時に行うことができます。構成は後で変更できます。

1. 固定インデックス

固定値またはマージされたルックアップ。管理者は、インデックスを参照するときに使用する固定値を設定したり、マージ メソッドからの動的な値を使用することができます。これにより、複雑なインデックス値またはマージされたルックアップを一度構築し、同じ値を参照するシンプルで再利用可能なインデックスを作成できます。

固定インデックスのオプション

a. インデックス名

インデックスを参照する際の識別子。

OCR またはエクスポート プロセス中にインデックスを参照するときに識別子となる一意の名前を作成します。

b. 値またはマージされたルックアップ

インデックスを参照するときに取得される値。

静的な値を設定するか、Merged メソッドを使用して数式を作成し、値を生成します。

c. 追加ボタン

「a」フィールドと「b」フィールドに入力した後、このボタンをクリックしてインデックスを追加し、後で使用することを可能にします。

d. インデックスのリスト

参照できる作成済みインデックスのリスト。インデックス名を呼び出すことでインデックスの値を取得できます。例:<<弊社名>>

2. バッチ索引

バッチ 索引の値は、バッチ内のすべてのドキュメントで使用できます。バッチ インデックスの値を決定するには、ユーザーの介入が必要です。バッチ 索引には、選択リストとテキスト値の 2 種類があります。

A. 選択リスト

バッチ内のすべてのドキュメントに適用される、手動で選択された値。Umango によって処理されるドキュメントのバッチ（OCR プロセスを使用したデータ抽出またはドキュメントのエクスポート プロセス）の前に、Umango はユーザーにバッチ インデックスの値を選択するように求めます。

バッチ索引
バッチ内のすべてのドキュメントに適用される、手動で選択または入力された値

☒ 固定値リストからの選択をユーザに求める **a**

選択リスト
インデックス名

b

ユーザが選択できる値のリスト (カンマ区切り)

c

ユーザは、上記のオプションのいずれかを選択するように求められます

選択リストのオプション

a. 有効にするためのチェックボックス

チェックボックスをオンにして、選択リストのバッチインデックスを有効にします。

b. インデックス名

インデックスを参照する際の識別子。

OCR またはエクスポート プロセス中にインデックスを参照するときに識別子となる一意の名前を作成します。

c. 利用可能な値

ユーザー介入中にユーザーが選択できる使用可能な値のリスト。

ユーザーに表示される利用可能な値を入力してください。各値はカンマ [,] で区切るか、キーボードの「Tab」キーを押します。

B. テキスト値

バッチ内のすべてのドキュメントに適用される、手動で入力された値。
Umango によって処理されるドキュメントのバッチ（OCR プロセスを使用したデータ抽出またはドキュメントのエクスポート プロセス）の前に、
Umango はユーザーにバッチ インデックスの値を入力するように求めます。



固定インデックスのオプション

a. 有効にするためのチェックボックス

チェックボックスをオンにして、選択リストのバッチインデックスを有効にします。

b. インデックス名

インデックスを参照する際の識別子。

OCR またはエクスポート プロセス中にインデックスを参照するときに識別子となる一意の名前を作成します。管理者は、複数のテキスト値インデックスの名前を入力することで、ユーザーに対して複数のテキスト入力を設定できます。各テキスト値インデックスの名前はカンマ [,] で区切るか、キーボードの「Tab」キーを押します。